

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	沼田 英子
主な担当科目	博物館概論、教養科目、博物館経営論、博物館資料論、博物館実習Ⅰ、博物館実習Ⅱ、博物館情報・メディア論、博物館展示論、美術史Ⅰ、美術史Ⅱ
シラバス	ここをクリック(本学ポータルサイトトップページが表示されます。) ※画面下「シラバス」>「シラバスを検索するにはこちらをクリックしてください。」をクリック
2023年の 教育目標・授業に 臨む姿勢	学芸員課程では、学芸員として博物館で働くための知識とスキルを身に付けられるよう、体験や見学を取り入れ実践的に学ぶ。美術史では美術の歴史や作品の理解を深め、美術鑑賞を楽しむことを重視する。目に見えるものを言語化する作業を通して分析力や鑑賞力を高め、他者に自分の感想を伝えるコミュニケーション力を培う。
2023年の教育に関 する自己評価	「博物館概論」「博物館資料論」では、学外見学の機会を設けレポート作成と報告会を行って感想を共有した。「博物館展示論」「博物館経営論」では、博物館実習Ⅰと連携して自分たちで考えたことを形にできるように工夫した。「博物館メディア論」では、発表の機会を使いITCによるコミュニケーションについて実践的に学んだ。「美術史」では展覧会鑑賞とレポート提出を課題とし、実際に作品を鑑賞する機会を設けた。
2023年のFD活動 に関する自己評価	FD研修会にはすべて参加した。大学運営や学生への対応などについて学ぶことが多かった。特に多様な学生がいる大学の現状と課題について、理解することができた。
授業改善のために 取り入れた研修内容	留学生を含め多様な学生がいることを受けて、柔軟な対応を心掛けた。

2023 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:3566 教員名:沼田英子

1)アンケート結果に対する所見

回答者数が少ない印象である。

博物館資料論については満足度が高いことがわかった。

美術史も概ね良好だが、クラスによって感じ方がずいぶん違うと感じた。

3クラスに共通するのは、学生とのコミュニケーションと、予習・復習が不足している点である。

後期は近現代美術を扱ったために、「難しかった」という感想も見受けられた。

2)要望への対応・改善方策

美術史は人数が多くコミュニケーションをとることが難しいが、事前に質問を受け付けて解答するなどの工夫をしたい。

チームズやポータルサイトなどを使って予習・復習をしやすい環境を整えたい。

近現代美術は内容的に難しいので、興味をもって学んでもらえるように授業を組み立てたい。

3)今後の課題

アンケートの回答者数を増やすこと。

以 上